

第6期 横浜市子ども・子育て会議 第1回子育て部会 会議録	
日時	令和5年7月4日(火) 午後4時08分～午後5時29分
場所	市庁舎18階みなと6・7会議室（オンライン開催）
出席委員	堀委員、上岡委員、田中委員、松井委員、
欠席委員	金委員、川越委員、八木澤委員、福居委員
事務局等	事務局 <u>4</u> 人、関係課 <u>30</u> 人
開催形態	公開（傍聴者1名）
議事	≪議題≫ 1 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について 2 その他

○堀部会長

それでは早速、次第に沿って進めてまいりたいと思います。

本日の議題となります第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について、委員の方の御意見を伺いたいと思います。御意見をいただくに当たりまして、事務局から資料の御説明をお願いしたいと思います。

それでは、事務局の方、お願いいたします。

○事務局

資料5 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について、別紙1、別紙2を説明。

○堀部会長

どうもありがとうございました。それでは、意見交換に移りたいんですけども、本日御欠席の委員から事前に御意見をいただいているということですので、事務局、ぜひ御紹介をお願いいたします。

○事務局

本日御欠席の八木澤委員から、出席できないおわびとともに御意見をいただいておりますので、私のほうから御報告させていただきます。

まず、障害児を持つ親としての意見ということでいただいております。資料もパワーポイントで映らせていただいておりますが、そちらも御覧になりながら、お手元の資料の実際の質問項目に沿って御紹介させていただきたいと思います。皆様、資料といたしまして

は、併せて、もし御覧になれるようでしたら別紙2の調査票のところもお願いできればと思います。

別紙2のまず4ページ目にございます未就学児調査の間11、こちらは小学生調査にも同じようなものがございますが、御説明いたします。3、お子さんの障害、発達の状況について聞く質問となります。こちらは間11が、冒頭お子さんの発達について医師の診断を受けたことはあるか、ないかというところでストレートに聞いているものですが、それに対しての質問ということで、最初から障害の有無を問うのは幼少期の親にとってはつらく、お答えするハードルが高いと思いますので、まずは間11-2、お子さんの発達、障害について相談した、もしくは相談中の地域の相談機関はどちらですかと先にこちらを問いかけていただければと思いますが、いかがでしょうかといった御提案です。

2つ目に、診断を受けたことを問う質問ですが、もう一つ選択肢を増やしていただくことは可能でしょうかということで、例えば3で、医師の診断は受けていないが、心配になり相談したことがあるといったような御意見です。それに対する心といたしましての御意見は、親が医師の診断有無に至る前段階として、まずは我が子が医師の診断を受ける必要があるのかどうか、安心して不安を打ち明ける人や場所を求めています。また、診断したことがある、ないだけではない、日々の葛藤や不安な思いをニーズ調査から読み取っていただき、身近な場所で不安な気持ちを受け止めやすくなるような相談支援の充実へ反映していただきたいと思いますという御意見です。

2つ目の御意見が、未就学児調査の間11-2、資料4ページのところでいきますとその下の部分となりますけれども、お伺いする項目ですが、身近な保育園や幼稚園の先生方に相談されている親も多いのではと思いますが、いかがでしょうか。加えて、障害の有無や年齢を問わない一時相談支援機関と言われる基幹相談支援センターも同様に加えていただけないでしょうかという御意見です。その心といたしましては、管轄する部署が違うことは十分承知していますが、市民側は管轄が違うことは把握していません。ニーズ調査だけにとどまらない話ではありますが、横浜市には相談先の選択肢が多くあることを提示していただきたいです。調査を通じて子育て世帯の市民に認識してもらうことも横浜で安心して暮らせる材料の一つになるのではと思いましたという御意見です。

続きまして、資料でいきますと8ページの未就学児調査の間25です。質問として2、利用していないに丸をつけた方の回答項目に、本人が利用したがないから、本人が疲れてしまうからといった本人側の理由もきっとあるはずだと思いますということで、今の選択

肢を御覧いただきますと、親側の意向の聞き取りであることは承知しているんだけど、幼少期であっても、本人側の思いを振り返られるような選択肢を増やしていただきたいと思うのですがいかがでしょうかという御提案でございます。

続きまして、質問の資料といたしましては11ページ目まで飛びます。こちらは未就学調査の間29になりますが、29が10年後も横浜市に住んでいるかどうかというものを聞く質問なんですけれども、これの意向について、なぜそう思うのかというものを聞いてほしいのですが、いかがでしょうかという御提案です。その意見といたしましては、10年後も住んでいるかどうかというのを考えるときに、足りている部分と足りない部分を皆さんそれぞれ思い浮かべると思いますが、それが子育て世帯の率直なニーズであって、横浜市の取り組む課題ではないかと考えるからですというところでございます。

続きまして、12ページを御覧ください。未就学調査の間32になります。こちらが、気軽に相談できる人を問う質問であるので、その他の例として地域訓練会を提示していただきたいという御提案になります。

続きまして、13ページになります。未就学調査の間37-2で、こちらも御意見として、選択肢の中で基幹相談支援センターの提示もしていただければという御提案です。

次が18ページの間47になりますけれども、こちらは選択肢に国籍や障害の有無を問わず、誰もが一緒に過ごせる場づくりと提示していただきたいと思います。横浜市の市民生活を整えていく上で重要な位置づけになるのではないのでしょうかという御提案です。

あとは、同趣旨の内容を小学生調査の同じようなところにも反映させていただければということで、最後にその他ということで、御意見をいただいております。調査票の構成について、障害や発達障害についての設問がやや少ないのではと感じたのですが、別立てしてもらおう案があるとお聞きしましたので、それに期待したいと思いますと、新たに子ども本人への質問を盛り込んでいただき大変うれしく思います。質問、回答が子どもたちにとって理解しやすいものとなりますよう、よろしく願いいたします。また、保護者を通しての回答では模範的な回答に偏りがちだと思うので、実際に小学校等へ足を運んでいただき、聞き取りされる機会があれば、より本音に近い回答になると思います。どうぞよろしく願いいたしますということで寄せていただきました。

御報告は以上です。

○堀部会長

御報告をどうもありがとうございました。大変貴重な御意見を複数いただいていると思

います。事務局の皆さん、御検討をよろしく願いいたします。

では、引き続き、御出席いただいている委員の皆様から、こちらのニーズ調査について御意見や御質問などをいただければと思います。どなたからでも結構ですけれども、いかがでしょうか。

○事務局

御意見等がございましたら、挙手なし、Zoomの挙手機能を使う等で意思を示していただけると助かります。上岡委員から挙手がありましたので、部会長、お願いいたします。

○堀部会長

上岡委員、ぜひよろしく願いいたします。

○上岡委員

設問が多いので、また後でほかのことを思いついてしまうかもしれないですけども、一旦気づいた点についてお話しさせていただきます。

先ほど八木澤委員の御意見でもあったんですけども、別紙2の4ページ、お子さんの障害とか発達の状況については、私も近いことを見たときに感じました。ある、ないで回答するのはちょっと難しい質問なのではないかなというのと、多分、相談したほうがいいですよと言われた人と、あとはそういうことは言われていないけれども、相談したいと思っている人みたいに、多分緩やかに分けると4つぐらいグラデーションがあるのではないかなとは感じています。なので、不安に思っている方が回答しやすいような設問の仕方にしていただけるといいかなと感じました。

あとは、小学生保護者向けの回答のところ、私自身も小学生、5年生、3年生の子どもがいるので、自分が回答するならと思って見ていました。それで、気になったところが、些細なところと言えば些細なところなんですけれども、13ページの「子育てをされていて感じている困りごと」のところですか。これも自分で回答するならと思ったときに、子どもの食事という回答の欄にちょっと「うーん」と思いまして、先日、私たち子育て当事者が多く参画しているNPO法人の代表をしているので、そちらのメンバーともすごく盛り上がって話をしたことなんですけれども、食事を作るのがすごく負担に思っているというのが、10人ぐらいで10人みんな、もう本当に負担、本当に負担という話になっていたんですね。でもそれって、子どもの食事というよりかは家族の食事みたいな話だったので、これの回答で想定されているのがそういったことなのか、でもアレルギーとかそういうことな

のか、回答で期待されている内容が、この選択肢だとふわっとしているのでよく分からないという印象として残ったところです。

○堀部会長

上岡委員、失礼します。今のは何の話でしたでしょうか。子どもの食事の回答項目。

○上岡委員

多分同じ質問が両方にあって。

○堀部会長

未就学のほう。

○上岡委員

番号が違うんですね、失礼しました。小学生向けのほうだと9ページの問30です。多分未就学児のほうで、子どもの食事といったときに、離乳食を作るとかそういったことが想定されるんだろうなというのがイメージできるんですけども、小学生になってくるとイメージが違うような気もしたので、少しどういった回答を想定されているのかというのを検討された上で、もしかしたら選択肢の文言とかを少し変えたほうがより具体的に伝わりやすいかと思いました。

あとは、これも同じ問30の質問の中で、経済的な不安というところも、不安はあるのかかもしれないですけども、どちらかという負担はあるかなと感じたので、そこも少し現在の負担感というところで変えてもいいかもしれないなと思いました。

でも全体的に結構問題数を絞っていただいたので、これぐらいだったら大分以前のものよりは回答しやすくなったなと感じてよかったですと思っています。

今回追加されたお子さん御本人への質問のところ少し気になったのが問42です。「横浜市がどのようなまちになってほしいと思いますか」のところたくさんあるんですけども、小学生の家庭ということは、1年生から6年生までみんないる中で、この回答にこの選択肢で回答できるのは多分5、6年生ぐらいという印象を持ちました。なので、この設問が意味をなすかがよく分かりません。

こういったことを聞くよりも、私個人の意見として思ったのは、今子どもたちはすごく忙しかったりするので、生活の中で何時に寝ているとか、習い事はどれぐらいしているとか、あとは学校を居心地がよいと感じているかどうか。結構ポジティブな回答を求められるような質問が多いと思うんですけども、実際に子どもがどんなことに困っているかを感じているかを聞くほうが全体としてはいいのではないかなと思ったので、個別の質問です

ごく気になったのはその42ぐらいなんですけれども、全体として子どもの困り事をここで聞いてあげたほうがいいのではないかなという印象を持ちました。

○堀部会長

上岡委員、どうもありがとうございました。複数の御意見をいただいたと思うんですけれども、まず1点目は、八木澤委員も御指摘くださっていたところですね。未就学のほうですと、問11のところですね。「子どもの発達に関して、何らかの医師の診断を受けたことはありますか」というのが最初の問いとしてあって、ある、ないで答えるというのが少し負担ではないかということで、不安になって相談をしたことがあるかどうかとかそういった質問から入って、それで相談機関はどこですかという問11-2に移って、その後、診断を受けたことがありますかという、順番を工夫されるということで、そういったところも大分答えやすくなるかと感じております。

それから、もう1点目の子どもの食事という、未就学児調査だと問37のところですけども、こちらに関しては、子どもの食事ということで困り事の一つに挙げておられますが、こちらは事務局としてどういったことを想定されているか、お答えいただくことは可能でしょうか。

○事務局

ありがとうございます。先ほどの子どもの食事のところは、上岡委員が言ってくださったような離乳食の話とか、お子さんが食べることとか、食べて栄養を取るところに関する悩みということで基本的には設定をしたつもりだったんですけども、委員がおっしゃったように、それを御覧になって答える方がどういうことを想像するかというのが年齢によっても違うし、それぞれの立場によっても違うだろうということが少し誤解のないように書かせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○堀部会長

御説明ありがとうございます。

それから3点目が、新しく加わっている小学生本人に答えてもらう質問についてですけども、こちらは小学校1年生が回答するのは難しいのではないかという御意見もありましたし、内容的に、全体としてもう少し困り事とかを聞いたほうがいいのではないかという御意見がありましたけれども、こちらについては、事務局、いかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。まず1点目の、これだと1年生から4年生ぐらいまでの子はか

なり難しいのではないかという御指摘、実はほかの部会でもこの部分については全く同様の指摘をいただいておりますので、その部会にいた専門家にもアドバイスもいただきましたので、言葉を簡単にするだけではなくて、選択肢そのものももう一度考え直していきたいと思っております。

あともう一つ、子どもの困り感とかを聞く質問のところは、むしろ御相談というか御意見をいただけたらと思うんですけれども、今回の調査はあくまでも保護者の方にお渡しして、保護者の方からお子さんに渡してもらって書いてもらうという形になって、お子さんが書いたものを保護者も見るといことがあります。保護者の方が見る中で、お子さんがこんなことを心配しているんだということで保護者の方が不安にならないような質問がいいのではないかと考えてポジティブなものにしてみたり、お子さん自身も保護者の方を困らせてはいけないと思うから答えにくい質問は避けようかなという思いで設問をつくってしまったところがあるんですけれども、実際回答されることとかをイメージされたときとか、お子さんとふだん接している中で、こういう設問を保護者を通じてやるときにどういうことに気をつけたらいいとか、こういうところまでなら聞けるのではないかみたいなところを御助言いただければまた考えていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

○堀部会長

どうもありがとうございます。小学生自身に回答してもらう質問というのは新たな試みということもありますので、今回は保護者を通して回答していただくという形式ですけれども、八木澤委員からの御意見にもありましたように、今後は、小学校などに足を運んで、本人に直接回答していただくといったことも今後ということでは可能性はありますでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。今回は子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査の中で子どもの意見を直接聞けたらというところで項目を設けましたが、こども基本法の趣旨を踏まえすと、こういうニーズ調査だけではなくて、直接お子さん自身に話を聞くとか、アンケートもできれば直接お子さんにお渡ししてそのまま回収できるようなものもやっていかなければいけないと思っております。例えばということではございますが、最初に資料5のパワーポイントの資料で御説明をいたしました、パワーポイントの資料の5ページに調査項目のスリム化を御説明したページがございました。下のほうの参考とい

うところに、2つ目で放課後キッズクラブ・放課後児童クラブの充実に向けた調査、それから障害児通所支援事業の利用者向けの調査というようなところに関しましては、保護者の方に聞く設問だけではなくて、お子さんにも答えていただけるような設問もつくっていきたくて思っていますし、すぐに学校を通じてできるかというところはこれからまた調整ではあるんですけども、何らか様な場面で、子どもから直接意見を聞けるような取組もニーズ調査とは別の場面で考えていきたいと思っております。

○堀部会長

どうもありがとうございます。では、ほかの委員の皆様、御意見はございますでしょうか。

○事務局

田中委員さん、松井委員さん、何かお気づきの点とか御意見等はございますでしょうか。

○松井委員

松井でございます。先ほどの現場の意見を聞くということは、アンケートにとっては、項目を選ぶ上で可能な限りしていただくといいのかなというところは同感いたしました。専門的なことは、申し訳ありません、私はお勉強を今させていただいているような感じですけども、私自身も子育ていたしましたけれども、もう大学生になりますので大分前のことではありますけれども、私の場合には、どうにか自分でやっていかななくてはいけないと思って子育てはしていましたけれども、こんなに横浜市、行政の方々が細かいところまでいろんな視点から考えてくださっているんだなというのを今日改めて伺いまして、ありがたいことだなと感じました。

○堀部会長

どうもありがとうございます。このようなきめ細やかな調査があることで、それを基に事業計画が立てられるわけで、やはりきめ細やかな事業計画につながっていきますよね。どうもありがとうございます。

田中委員、何かございますでしょうか。

○田中委員

すみません、会議で黙っていましたが、皆さん委員の方が全部細かい質問も含めてのことだったので、そういう意見があまりなかったので発言を控えていました。この場では全体も含めてのお話の意見でも大丈夫なんでしょうか。

○堀部会長

はい、結構です。大丈夫です、ぜひお願いします。

○田中委員

そうしましたら、私のほうが今さら言ってももう駄目だと思うので、これは今後の課題としてぜひ考えていただきたいと思ったのが、まず1点は、これは別の会議でも出ていたかと思うんですけども、中学生、高校生の意見というのが今回は聞かれないということになっていますので、今後の課題として、今年度は難しいということであればしようがないと思いますが、今後は考えてもらえたらというのが1点です。

あとは個別のことに関しては、とにかくすごく練られていると思いますので、特別意見はないんですが、私のほうが、いわゆる虐待とか社会的養護という分野の施設の立場のほうからの発言になるんですけども、こういうアンケートみたいなのが、例えば私たちの施設に来る保護者さんがこのようなアンケートを答えるかということ、多分恐らく答えないのではないかとというのがすごく想定されていて、サービスが用意されれば全て使うか使わないかと言うと、そういう話も含めて結構孤立感を抱えている方が答えるというところで言うと、アンケートとして、一般のサービスがあれば使うということが前提とされているアンケートのような感じがすごくしたというのが1点だけ。

あともう一つは、僕のほうが、質問の中でいわゆる子育てとか、子育てに困り感という言葉にはなっていると思うんですけども、私の立場からすると、虐待という言葉とかを一切ここで使わないというようなことになっていますが、恐らくこのアンケートを目にする方の中で、それこそそういうことをしてしまったとか、しそうであるとか、それこそ身近に見たとか、そういう方もたくさんいらっしゃると思うので、その言葉を使った上で具体的な質問とかがあると、そういう方たち、我々の施設のほうに子どもを預けているような親御さんでも答えるのではないかなと思うんですが、そうでなければ、このような質問はどちらかというとならないのではないかなというのが少し気になる場所でした。

○堀部会長

貴重な御意見をどうもありがとうございます。3点ほど御意見をいただいたと思うんですけども、事務局、こちらに関して何かコメントはありますでしょうか。

○事務局

ありがとうございました。まず1点目の今回の調査が未就学児を持つ保護者と小学生の保護者というところになっていて、こちらは子ども・子育て支援事業計画をつくるに当た

っての調査はこの対象でというふうに法的に決まっている中での調査ではあるので、これはこれでまずは実施をさせていただきたいと思いますが、中学生、高校生についても子ども・子育て支援事業計画の中に位置づける施策の対象になるものがたくさんございますので、全く同レベルのアンケートとかは正直難しいかとは思いますが、何らかの形で意見を聞いて反映をさせていくというところを検討していきたいと思っております。

それから、設問のところ、子育ての困り感とかそういうところだけだと、社会的養護の下でとか、御支援を受けているような家庭だとなかなか自分事になりにくくて答えないのでないかという御指摘かと思うんですけれども、選択肢の中でこういった項目を設けるといいのかみたいなことは少し検討させていただきたいと思います。できるだけ多くの方の御意見をいただいて反映をさせていきたいという趣旨の調査になりますので、工夫できる点はやっていきたいと思っております。ありがとうございます。

○堀部会長

どうもありがとうございます。ほかには、委員の皆様いかがでしょうか。いろいろと御意見が出てくる中で、またお気づきになられた点などがございましたらぜひお願いいたします。上岡委員、よろしく願いいたします。

○上岡委員

たびたびすみません。ちょっと見つけたところが1つあったんですけれども、小学生向けのほうの間19で、子育てサポートシステムについて聞いている設問があるのですが、利用の意向をここで聞いているのですが、子育てサポートシステムを知らないという可能性があるような気がします。なので、その選択肢は検討されるといいかなと思いました。

あとは、先ほど申し上げましたお子さん御本人への質問なんですけれども、親御さんへの御配慮というのは分かるところもありますが、多分聞けるところはあるかなと思っていて、パブリックコメントを前回に募集したときとかにも、横浜は児童館がないよねとか、放課後の居場所に関することはほどほどにあったように記憶しているんですね。なので、放課後、子どもたちがどのように実際のところ過ごしているかというところに関してはさほど苦しい思いとかを吐露するような感じではなく、実際にあるかないかみたいな現況の質問ができるのではないかなという気がします。

個人的な認識としては、横浜は自転車を練習するところがないとか、プールが学校のプール開放が夏休みは全然ないとか、他市に比べると、放課後の居場所的に居所がないかなと感じるところが結構あります。地区センターとかはあるんですけれども、ほかのエリア

の児童館ほどの頻度であるわけではないので、うちの近くには地区センターがないので、コミュニティハウスはある場合もありますが、低学年のうちからだと、すごく近所であれば使えますけれども、なかなか使うのが難しいなと感じているところもあつたりするので、実際のところ子どもたちがどうやって過ごしているのか。あとは、塾が週に何回もあって、高学年になると塾、塾、塾みたいな過ごし方をされている子もいるので、そういった実態とかを見てみるのもいいのではないかなという気がしました。

○堀部会長

上岡委員、どうもありがとうございます。横浜の子育てサポートシステムの質問について、まず知っているかどうかというのを尋ねてから利用しているかどうかというのを尋ねたほうが良いという御意見ですね。そちらはそんなに数項目が増える形でもないので、そのようにしていただくといいのかなと思います。

それから、小学生向けの調査に関してですけれども、新たな御意見が上岡委員から出ましたけれども、保護者が見てもそれほど問題ないような項目で重要なもの、放課後の過ごし方ですとか、先ほど出させていただいた何時に寝ているかとか、習い事をどのぐらいやっているかといったことを加えるという点に関しましては、事務局の方はいかがでしょうか。

○事務局

ありがとうございます。前回のパブコメでも居場所に関することの御意見が多かったというところまで御確認いただいてありがとうございます。問41のところでは「家や学校以外で、居心地が良いと感じる場所を教えてください」というのはつくっていたんですけども、今の御指摘だと、どういうふうに過ごしているのかという事実とか、あとはどういうところがいいと思っているかみたいなことをもっと率直に聞くほうがいいのかなという御指摘かと思います。あとは寝る時間みたいなところも事実を聞いていくものということで、それを踏まえてどういう生活状態なのかみたいなことに生かしていけるかなと思うので、設問数の限界があるところではあるんですけども、どのような対応ができるかは検討してまいります。ありがとうございます。

○堀部会長

どうもありがとうございます。事実に関するところは子どもたちも答えやすいのではないかと思いますし、とても重要な点をたくさん上岡委員から御指摘いただいたと思いますので、ぜひ御検討をよろしくお願いいたします。

同様の小学生への質問項目ですけれども、私も娘が小学校1年生なので、これができるかなと思って聞いてみたんですけれども、親が大分かみ砕いて説明すれば分かるということもあるんですけれども、それでも分からないところはもう選択肢から外れてしまうという感じにどうしてもなるので、分かる範囲の中から選ぶということになってしまうかなというところはありましたので、問40、41、42と、説明すると大体分かるんですが、ただ、問42の例えば「デジタル技術の活用が進んでいるまち」とか、「様々な価値観が認められるまち」とか、「学校の教育が充実しているまち」というのは、やはりイメージが持ちにくいようなところも小学校1年としてありましたので、もう少し分かりやすい表現にさせていただくというところですかね。

問43は比較的答えられそうで、問44はかなり難しいかなと思います。希望とか幸福、信頼とか可能性というのは、別の言葉で子どもに分かりやすく説明するというのは、私の言語力の問題もあるかもしれないんですけれども、かなり難しかったですし、進歩と成長の違いをどうやって説明すればいいんだろうとかいろいろございましたので、これからの横浜を考えていく上で、未来の理想の自分というのを質問に入れたいという意図はすごく分かるんですけれども、そちらはもう一度考えていただいたほうがいいかなと思いました。

あと、問45と問46があまりにも漠然としているので、どういうことを答えたらいいのかなというのがちょっと難しいかなと。「あなたの好きな〇〇を教えてください」。そこの表現の仕方。あなたの好きなことを教えてくださいのほうがまだ分かりやすいかなとか、問46も、マイナスなこともプラスなことも含めてという意図でこのような聞き方をされているとは感じたんですけれども、少し答えにくいのかなと感じたところです。

私も上岡委員の御意見を伺って、何時に寝ているかとか、習い事をどのぐらいやっているのかとか、ふだん放課後をどのように過ごしているのかとか、そういった質問はとても大事だし、比較的答えやすいのかなと感じたところです。すみません、ちょっとしゃべり過ぎたかもしれません。

○事務局

御意見をありがとうございました。初めての試みということで、事務局のほうも悩みながらつくっていたところはあるんですけれども、御指摘いただいたところは本当にごもつともだと思いますので、可能な限り全面的に考え直してみたいと思います。本当にありがとうございました。

○堀部会長

ありがとうございます。ほかは皆さんいかがでしょうか。せっかくの機会ですので、どのようなことでもお気づきのことなどがありましたらぜひ。田中委員、よろしく願いいたします。

○田中委員

個別の質問ではないんですけども、この調査票のかがみ文みたいなのが、1枚目の調査票のところにあるこのものでよろしいのでしょうか。これ以外にアンケートを取る人に説明がないのかどうかというところで、一般市民の立場で言うと、子ども・子育て支援事業計画は何だという話ではないかというのがあると思うんですけども、そこがわざわざあえて入れないという前提で、それこそ全くそういうことを説明しようとするとう政策誘導的になってしまうから付け加えないのかどうかというところがあると思うんですけども、私はこの会議に出ているからあれですが、一般の方からすると、これに答えて何になるのかというところがあると思うので、そこら辺が考えられた上で、この一言だけで調査票のかがみ分になっているのかどうかをお聞きしようと思いました。

○堀部会長

ありがとうございます。柿沼課長、お願いいたします。

○事務局

御意見をありがとうございました。本日調査票を御用意しておりますが、調査票と一緒に依頼の文章のようなものはもう1枚お入れする予定でございます。その中にどこまで書き込むかというところはこれから検討ではあったんですけども、今回お答えいただくことでどういうことに生かしていくのかとか、例えばお子さんの御意見を聞くという意味がどういうことなのかみたいところはきちんと御説明をした上で御理解いただけると答えていただける方も増えるかなとも思いますので、依頼の中身のところで、今の御意見を工夫して反映していきたいと思っております。ありがとうございます。

○堀部会長

ありがとうございます。ほかには委員の皆様、何かございますでしょうか。

すみません、私のほうから1点よろしいでしょうか。未就学児の調査のほうの間22、こちらはこれまでの調査票から少し統合したりして、新たにつくってくださっている部分でとても重要なところと思うんですけども、親子の居場所について、利用していますかということで、現在利用しているかどうかということをお聞きする質問なんですけれども、過去に

利用していたことについても尋ねたほうがよいかと思いました。未就学児といっても、やはり0から6で大分違って、こういう場所を利用するのは0、1、2とかそのぐらいですので、3歳、4歳、5歳とか、保護者の方は「利用していない」というふうにつけることになるかと思うんですけども、そういう方も過去に利用していたことがあるかもしれませんし、そういった部分も拾えたほうがよいのではないかと思いますので、御検討いただけるとありがたいと思いました。

○事務局

ありがとうございます。検討させていただきます。

○堀部会長

よろしく願いいたします。

ほかはいかがでしょうか。こちらはまた後で思いついたことなどがあれば、1週間ぐらいの猶予があってお伝えするという方法もございましたでしょうか。

○事務局

今日言い切れなかったこと、この後思いついた御意見等につきましては、こども家庭課のほうで伺いますので、大丈夫ですのでよろしく願いいたします。

○堀部会長

ありがとうございます。大体いつ頃までに御意見をお伝えしたほうが良いという期限などはございますか。

○事務局

1週間をめどでお願いしたいと思います。今日は火曜日ですので、来週の火曜日中ということでいただければと思います。

○堀部会長

ありがとうございます。1週間程度お時間をいただけるということですので、委員の皆様方、またお気づきの点などがございましたら、事務局のほうによろしく願いいたします。

特になければ、本日のこちらの意見交換については以上とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

大丈夫ですかね。では、ニーズ調査の意見交換は以上とさせていただきまして、その他の議題についてございましたら、事務局、よろしく願いいたします。

○事務局

その他ということで、急遽なんですけれども、記者発表に関して報告事項がございます。

2件ございますので、よろしくお願いたします。

○事務局

記者発表資料「地域で子どもを預かる『横浜子育てサポートシステム』無料クーポン（子サポdeあずかりおためし券）」を説明

○事務局

続きまして、2件目になります。

○事務局

記者発表資料「『はじめてのおあずかり券』配付開始！」を説明

○堀部会長

どうもありがとうございました。

では、その他の議題もこちらで以上ということで、本日の議事はこれで終了となります。委員の皆様、貴重な御意見をいろいろといただきまして、本日はどうもありがとうございました。

【資料】

資料1 横浜市子ども・子育て会議子育て部会 委員名簿

資料2 横浜市子ども・子育て会議子育て部会 事務局名簿

資料3 横浜市子ども・子育て会議条例

資料4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱

資料5 第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けたニーズ調査について

記者発表資料「地域で子どもを預かる『横浜子育てサポートシステム』無料クーポン（子サポdeあずかりおためし券）」

記者発表資料「『はじめてのおあずかり券』配付開始！」